

福州市友好都市提携 35 周年記念公式訪問団報告書

(水産技術交流班)

長崎市議会議員	中村 照夫
長崎市議会議員	井上 重久
長崎市議会議員	武次 良治
長崎市議会議員	永尾 春文
長崎市議会議員	平野 剛
長崎市議会議員	橋本 剛

(水道技術交流班)

長崎市議会議員	五輪 清隆
長崎市議会議員	岩永 敏博
長崎市議会議員	林 広文
長崎市議会議員	幸 大助
長崎市議会議員	山崎 猛
長崎市議会議員	木森 俊也

訪問の目的

多くの長崎華僑の出身地である福州市との友好都市締結から 35 周年を迎えることから、長崎市から福州市へ公式訪問団を派遣し、これまでの交流の確認を行うとともに、記念行事への出席や技術交流などを通じて相互理解を図ることなどにより、さらなる関係強化と交流促進につなげます。

併せて、上海市を訪問し、中国市場の現状や可能性等の調査・視察を行ってまいりましたので、その概要についてご報告いたします。

訪問期間 平成 27 年 11 月 9 日（月）～11 月 13 日（金）（5 日間）

訪問都市 中華人民共和国 福建省福州市、上海市

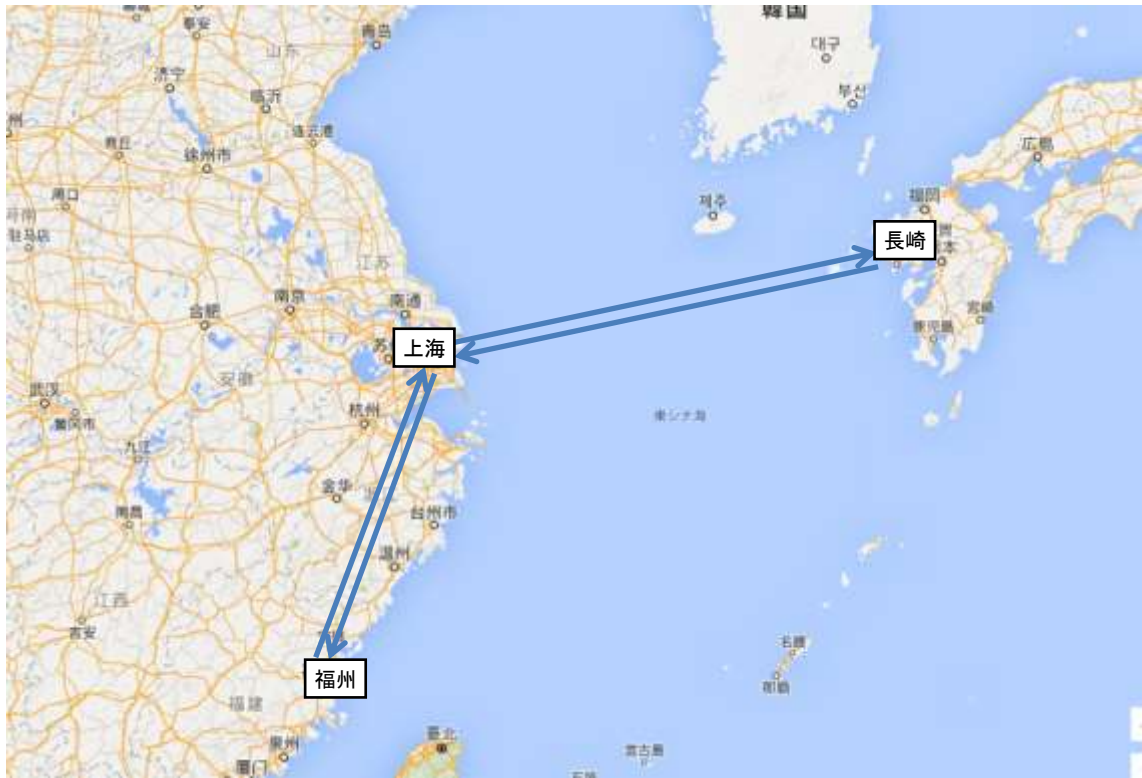
訪問団構成 25 人

県訪中団から途中合流 3 人（加藤副市長（団長）、西田副議長（副団長）、国際課（通訳）1 人）

水産技術交流班 11 人（議員 6 人、水産農林部 3 人、議会事務局 1 人、国際課 1 人）

水道技術交流班 11 人（議員 6 人、上下水道局 3 人、議会事務局 1 人、観光推進課（通訳）1 人）

行程地图



日 程

月 日	曜日	現地時間	用 務	
11月9日	月	10:00	結団式	
		10:10	長崎市役所 ⇒ 長崎空港	
		13:00	長崎空港出発 (中国東方航空 520 便)	
		13:35	上海浦東空港到着	
		16:20	上海浦東空港出発 (中国東方航空 5631 便)	
		18:00	福州長楽国際空港到着	
		19:00	福州市外事僑務弁公室主催招宴	
			<福州泊>	
11月10日	火		【水産技術交流班】	
		10:20	連江県官場村 (かんうむら) コンブ養殖地視察及び意見交換	
		14:30	海洋漁業技術センター視察及び意見交換	
		17:30	福州市海洋漁業局主催招宴	
				<福州泊>
			【水道技術交流班】	
		8:30	福州市自來水西区浄水場視察及び意見交換	
		14:30	福州市洋里汚水場視察及び意見交換	
		17:30	福州市自來水有限公司主催招宴	
		<福州泊>		
11月11日	水	10:00	福州港江陰港区視察	
		11:10	黄檗山萬福寺視察	
		12:30	福清市主催昼食会	
		14:30	福州自由貿易試験区受付ホール視察	
		15:40	三坊七巷視察	
		18:00	福州市副市長会見及び水産交流協議書調印式	
		18:30	福州市副市長主催招宴	
		<福州泊>		
11月12日	木	9:35	福州長楽国際空港出発 (中国東方航空 5508 便)	
		10:50	上海虹橋国際空港到着	
		13:00	長崎県上海事務所訪問	
		14:30	長崎魚市アンテナショップ視察	
			<上海泊>	
11月13日	金	9:40	上海浦東空港出発 (中国東方航空 519 便)	
		12:10	長崎空港到着	
			長崎空港 ⇒ 長崎市役所	
		13:30	長崎市役所到着	

※出発式は議会棟第一応接室、解散式は議会棟玄関にてそれぞれ行われた。

1 福州市の概要

福州市は福建省の省都であり、5区2県級市6県を所管している。福建省東部に位置しており、四季を通して緑が豊かで、霜や雪は稀な温暖な気候である。

歴史文化都市として現在に至るまで2100年の悠久の歴史があり、唐朝以来、福建省の政治、経済、文化の中心となっている。主な産業は電子、機械、化学工業、紡績、軽工業、食品、靴製造等である。面積は11,968平方キロメートル、人口は約680万人。

2 友好都市提携の経緯

福州市は、多くの長崎華僑の出身地で歴史的につながりが深い都市である。中日友好の船「明華号」の長崎訪問の際に、中日友好協会会長に要望書を提出。歴史的なつながりをもとに友好姉妹都市締結が実現した。

3 福州市訪問（11月9日～11日）

（1）福州市副市長会見

11月11日、加藤団長、西田副団長以下公式訪問団25人は、福州市副市長をはじめとした福州市幹部を訪問し会見を行った。

会見の中では、福州市側から胡振杰福州市副市長が、長崎市側からは団長である加藤長崎市副市長があいさつを行った。

◎福州市側

胡 振杰 福州市副市長 ほか福州市幹部6人



右：胡振杰福州市副市長



会見会場（全体像）

〔主な内容〕

- 胡福州市副市長及び加藤長崎市副市長の双方から、これまでの両市の様々な分野の交流を積み重ねることで深い絆を築いてきたこと、またその交流が喜ばしい成果をもたらしていることについて、感謝の言葉が述べられ、今後とも、発展的な付き合いを続けていくことを確認した。
- 胡福州市副市長は、今年4月に発足したばかりの福建自由貿易試験区について触れられ、福州市の経済が今後ますます発展する可能性について述べられた。加えて、長崎市の企業

や投資家の進出について期待が述べられた。また、現在は水道及び水産分野での交流が活発だが、今後は文化分野の交流もさらに深めていきたいとの希望が述べられた。

■公式訪問団を代表して団長の加藤長崎市副市長から、今年7月に福州市訪問団が来崎された際に、友好都市提携35周年を記念したイベント「福州デイ」をJR長崎駅のかもめ広場で開催し、中国や福州市の伝統的な歌や舞踊などを市民の皆さんに披露していただいたこと、また今回の訪問に際し心のこもったおもてなしをいただいたことについてお礼が述べられた。

■会見後に開かれた祝宴の席で、公式訪問団を代表して副団長の西田副議長からは、「習近平国家主席は、『日中両国の友好は経済、文化・技術面の交流が大事である』と言われていて、私はこの言葉を聞いて、長崎市と福州市の関係を思い浮かべ、両市の交流はまさしくその言葉通りだと思った。5年後の友好40周年に向け、両市の友好と交流の輪がさらに大きく広がることを祈念する」と述べられた。

※福建自由貿易試験区…台湾と向かい合うという地域の優位性を活かし、「兩岸（中国大陸と台湾）経済協力のモデル地域」、「21世紀海上シルクロードの核心地域」といった戦略目標を掲げ、台湾企業に対するサービス業の市場開放や兩岸貿易の自由化等を推進。金融、投資、貿易、法制等における改革を目指した特区である。

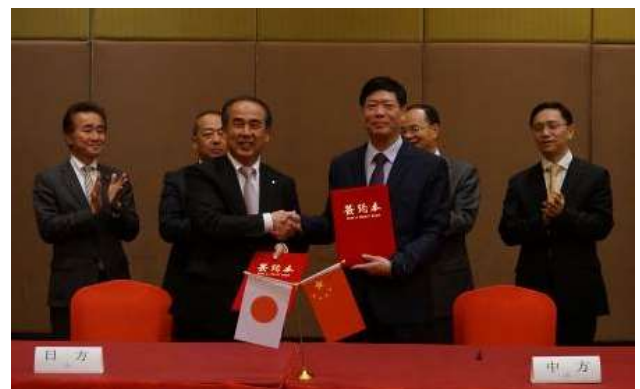
（2）長崎市と福州市の水産交流協議書の調印式

11月11日、長崎市を代表して原田水産農林部長、福州市を代表して林心銜海洋漁業局長が、今後5年間の水産交流の内容を記した「長崎市と福州市の水産交流協議書」に署名し、今後も両市の漁業のさらなる交流と協力について認識を共通のものとした。

協議書の調印に際しては、加藤副市長、西田副議長、胡福州市副市長及び林汉隽人民政府外事僑務弁公室主任が立会人を務めた。



立会人のもと、両市協議書に署名



協議書を交わした（右：林心銜海洋漁業局長）

※協定書の主な内容…「今後も必要な時期に相互訪問団を派遣し、漁業について視察し、海洋資源と環境保護、漁業科学技術、漁業貿易などについて交流を深める」「人口漁礁、水産種苗の生産、底播種、赤潮モニタリング、水産品加工等の技術交流を行い、互いに品種改良技術研究に協力する」「引き続きお互いに研修員を派遣する」等

(3) ア 連江県官場村コンブ養殖地視察及び海洋漁業技術センター視察

11月10日、井上水産技術交流班班長以下11人は、福州市内の連江県官場村コンブ養殖地及び海洋漁業技術センターを訪問し、施設の視察と活発な意見交換を行った。

①福州市連江県官場村コンブ養殖地視察及び意見交換（連江県官場海洋開発有限公司）

〔主な内容〕

- 林哲龙社長の説明のもと、施設の視察を行い、その後、意見交換を行った。
- 当施設では、コンブ、ナマコ、アワビ等の種苗生産から養殖、加工までを行っている。1955年に7人の村民で立ち上げたが、現在では、「自社が立派になって、地元の他の企業と連携して、みんなで豊かになる」という社長の考えのもと、スタッフ500人のほか7,300人の漁民と連携する国内有数の企業である。
- コンブは、養殖面積が約25万平方メートル。例年11月中旬から種付けを開始し、翌年の5～6月頃に出荷している。年間生産量は約25万トン、生産金額は2億5,000万元（約50億円）で、加工製品も生産している。高水温に強い、普通、低水温に強いという3つの種類の種苗を毎年の海水温等に応じて生産しており、2005年から親種の管理を行っている。



連江県官場海洋開発有限公司の皆さんと



コンブ養殖についての説明を受けるようす



施設内に展示された様々な加工製品のひとつ

- アワビの生産量は年間200トン（2,000万個）、売上げは5,000万元（約10億円）、ナマコも年間200トン生産している。ナマコの種類は、刺参（マナマコ青色）、採卵時期は3～4月で天然採卵である。いずれも天然の環境を利用した大規模な生産が行われていた。
- そのほか、福州市からクロマグロ養殖について熱心に質問があるなど、活発な意見交換が行われた。



意見交換のようす（左側が福州市）

②海洋漁業技術センター視察及び意見交換

[主な内容]

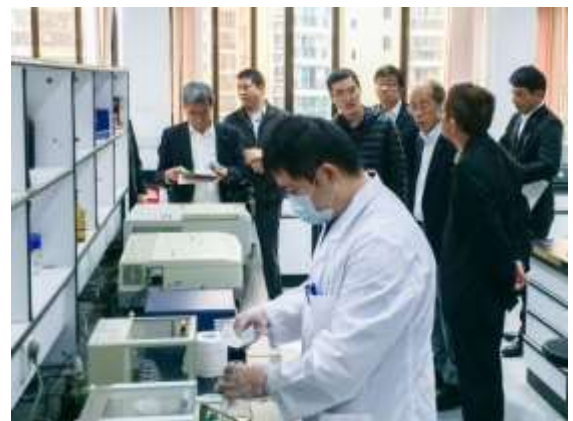
- 楊小強主任の説明のもと、施設の視察を行い、その後、意見交換を行った。
- センターは、水産食品検査、水産技術推進、海域監視など7つの部署で構成されており、69名の職員が在籍している。
- 業務内容は、水産製品の安全検査、水質検査、水産養殖技術推進、海域使用監督や津波情報等気象情報の収集及び注意情報の配信などがあり、業務水準は中国国内においてトップクラスである。
- また、生物実験室、理化科学実験室、魚病実験室に微生物分析器やPCR検査（DNA分析）など世界最先端の実験や検査のための機器を備えており、中国国内でトップレベルの検査機関として国の認証を受けている。



福州市海洋漁業技術センターの皆さんと



海洋の状況を監視するためのモニター



魚介類の病気やウイルスの研究室

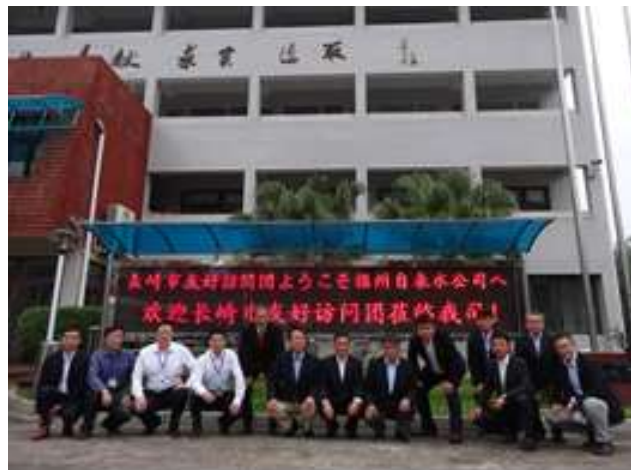
- 意見交換会では、冒頭、蘇可練副局長から歓迎の挨拶があり、長崎市との交流の成果としてアワビの品質向上を挙げられ、今や福州市の重要生産物となっていることに感謝された。その後、これまでの長崎市との水産交流の概要説明と意見交換が行われた。
- 今年、福州市は度々台風に見舞われたが、気象情報に基づき早期の対応を行ったため、水産業への大きな被害はなかったが、エビ養殖場には影響があったようである。
- 中国におけるフグ食については、現在一部の地域で独占的に許可されているのみとのことであり、フグ食解禁の動きは当面ないようである。福州市はシラスウナギの産地であり、多くを日本に輸出しているが、品質管理が厳しくなっており、そのための検査をこの施設で行っている。
- 福州市からは長崎市の放流事業や水産物の流通経路について活発な質問があった。



意見交換のようす（左側が福州市）

(3) -イ 福州市西区浄水場及び洋里汚水場視察 (水道技術交流班視察)

11月10日、五輪水道技術交流班班長以下11人は、福州市西区浄水場及び洋里汚水場を訪問し、毛祚財福州市自來水有限公司総経理の説明のもと、施設の視察を行うとともに、活発な意見交換を行った。



福州市自來水有限公司の皆さんと

①福州市西区浄水場視察及び意見交換

[主な内容]

- ①原水に薬を撒く、②沈殿させる、③ろ過する、④給水するといった4つのプロセスで行っている。梅雨時期は原水に汚濁がたくさんあり、逆に雨が少ない今のような時期は汚濁が少ない。しかし処理としては汚濁の少ない時期の方が難しい。それは水温が低いため。汚濁の多寡よりも水温の温度が処理の際には重要である。
- 中央監視室の監視モニターは先月新しく導入したもの。複数のパネルが敷き詰められており、画像の表示レイアウトはオペレーターにより随時切り替え可能。



中央管理室のモニター



モニターの表示内容などの説明を受けるようす

- セキュリティシステムに力を入れており、有毒有害物が原水に入り混まないようにする対策、塩素もれ事故対策、中央制御室等重要な場所に侵入されない対策等について説明を受けた。また、監視システムには尾行機能もあり、120メートル四方の範囲で1分間に約20のターゲットを尾行することができるとのことだった。



原水に毒性物質が混入した際の早期発見を目的とする「原水生物預警池」(魚類監視設備)



要所要所に侵入監視用のカメラを設置
(360°監視可能なカメラもあり)

- 福州市では3階建以上の建物では、タンクに貯水して給水する方法をとっている。説明をされた毛総経理は、昨年来崎されており、「二次給水を行う長崎のやり方は、コンパクトで良い方法だと感想を持った」と述べられた。
- 訪問団から、国営から民営化に移行しているが、設備等の負担はどうなっているのかと質問したところ、「新しいインフラは国、古い設備の改修は民の資金、その他は契約によって定められる」とのことだった。
- 福州市内でマンションの建設が目立つが、水道を利用する際に、負担金のような制度があるのかお聞きしたところ、マンションなどを取得する際に、インフラ費が不動産取得費の中に含まれている。9階までは不動産業者が負担し、9階を超えると開発者（デベロッパー）が負担するとのこと。
- 福州市の水道料金は1世帯3人家族の場合、下水道代も含め月800円～1000円くらいとのこと。
- 水道管の老朽化は福州市も同じ課題を持っているとのこと。計画的に水道管のやり直しを行っているが、どうしても突発的な工事を行わざるを得ない場合があり、その際は通常の2倍の費用がかかるとのこと。



意見交換のようす（左側が福州市側）

②福州市洋里污水場視察及び意見交換（福建海峡環保集团股分有限公司）

〔主な内容〕

- 洋里污水場の処理能力は1日に60万トン。福州市の下水道普及率は87.5%である。（長崎市93.2%）中国は、1980年代から污水処理に力を入れ始めた。污水処理のほか、ごみの焼却や汚泥の処理にも力を入れている。



景観に配慮し庭園のように緑化された反応槽の上



臭気対策として生物脱臭装置を設置

- 国策として、MBR施設（最終沈殿池の代わりに「膜」で固液分離を行う新しい排水処理技術）など、最新技術を取り入れ、実施している。



建屋内のMBR設備

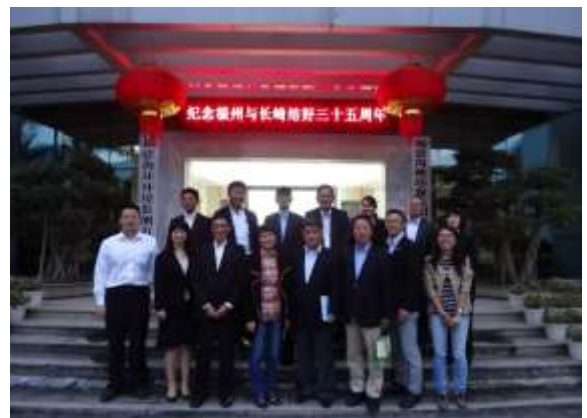


調整中のMBRモジュール引き上げ
(中空糸タイプのろ過膜)

- 下水管の取り換えについては、耐久年数を目安としているが、劣化の具合をロボットカメラで見たり、管内部にセメントを塗って管の延命化を図ったりしている。
- 小さな川の汚水収集が徹底されていないところがあり、これからの課題である。
- 1998年に設立された若い会社であるため、長崎市のやり方についての質問が殺到し、汚泥の処理方法などについて活発な情報交換を行った。



中央管理室



福建海峡環保集團股份有限公司の皆さんと

(4) 福州港江陰港区視察

11月11日、福建省福州市福清市にある福州港江陰港区を視察した。

〔主な内容〕

- 福建自由貿易試験区は3つのエリア（ピントンエリア、アモイエリア、福州エリア）で構成されている。福州保税港区の計画総面積は9.26平方キロメートル。国際物流区、加工貿易区、鉄道物流区、港湾集散区の4大機能区に分かれる。福州港江陰港区は福州エリアの保税港区の一つである。



福州保税港の入り口

- 保税區とは、中国の政府により設置、あるいは認可して設置された特別経済区域のことで、税関の監督・管理下で輸入品・輸出品が一時的に保管される場所である。国際慣例をもとに運営されているため、他の開放地区よりも柔軟な優遇策が取られており、中国と国際市場を結ぶ拠点となっている。主な機能としては「保税保管、輸出加工、中継貿易」の3つがある。「輸出入許可証の免除、免税、保税」の政策が取られているため、この区域は中国国内にありながら中国国外として扱う「境内関外」の管理方法を実施しており、海外の企業が輸出入加工、国際貿易、保税保管されている商品の展示をする拠点となっている。中国が対外開放している区域のうち、開放度と優遇率が最も高く仕組みが最も簡潔な経済区域の一つと言われている。
- 2014年2月23日までの福州港江陰港区の年間100万個の規格コンテナの輸送を突破し、前年同期より23.5%増加した。ウォーターフロント全長2,632メートルで8コンテナバースが既に完成し、コンテナ取扱能力は175万規格コンテナに達する見通しである。
- 昨年、江西省南昌市からの貨物鉄道が運行を開始し、陸地からの運搬経路の確保もできている。
- 海上シルクロード沿岸諸国・地域間の交流・協力のプラットフォーム、かつ、兩岸の貿易・金融サービス方面における協力体制のモデル地区として機能することが期待されている。



開発計画等の説明を受けた



広大な敷地に数多くのコンテナが積まれている

(5) 福州自由貿易試験区受付ホール視察

11月11日、福建自由貿易試験区の福州エリア行政サービスセンターを訪問し、受付ホールを視察した。ここでは、福州自由貿易試験区の計画について説明を受けた。



福州自由貿易試験区の計画について説明を受けた



ずらりと並んだ受付カウンター

(6) 福州市内視察（黄檗山萬福寺、三坊七巷）

11月11日、「黄檗山萬福寺」を訪問し、李学鴻福清市副市長、悲昇蓮智萬福寺住職等の出迎えを受け、境内を視察した。黄檗山萬福寺は789年に開山され、1200年を超える歴史がある禅寺。長崎にゆかりの深い隠元禪師が住職をされていた寺で、長崎の崇福寺など唐寺の建築様式と同じだという説明があった。住職から、「日本と中国のつながりは深い。宗教の交流だけでなく他の分野でも交流を期待する」との言葉があった。



萬福寺の境内



隠元禪師像

同日、唐時代に形成され、現在でも明、清時代の建造物がいくつも残る「三坊七巷」を訪問した。当時の県知事の屋敷を見学し、意匠を凝らした調度品や縁起を担いだ置物などの説明を受け、往時の暮らしを感じることができた。

4 上海市訪問（11月12日）

(1) 長崎県上海事務所訪問

11月12日、長崎県内企業の中国進出支援や観光物産PR、航空路線の維持拡大、友好交流支援等を行っている長崎県上海事務所を訪問し、久保副所長から中国の旬な話題をお聞きした。



久保副所長の説明を受けるようす

〔主な内容〕

■訪問した11月12日の前日である11日は、中国では「独身の日」(1(シングル)が四つ並ぶため)。中国ネット通販最大手のアリババがセールを行ったところ、1日で870億元(1.7兆円)を売り上げた。昨年は571億元(1.1兆円)の売上で、1億元(20億円)に達したのは75秒だったとのこと。このように中国ではネットショッピングが盛んで長崎の企業からの問い合わせも多い。しかし中国に倉庫を持っていること、クレーム処理を行う人を置いておくことが条件にあるため、なかなか進出できない。これをクリアするためには一社では難しいので、例えば行政から県下の企業に参加を呼びかけて、複数企業が一緒になって行うなどの工夫が必要だと考えるとの話があった。

- 一人っ子政策の廃止についても触れられ、人口は今も増え続けているが 2025 年の 14 億 1 千万人がピーク。2012 年から労働人口はすでに減少傾向にあり、2050 年に 65 歳以上が占める割合が 35%に達する見込みである。これの対策として一人っ子政策の廃止が打ち出されたが、都市部を中心に教育費が増えており、また食糧問題、エネルギー問題などの課題もあるため、効果がどのくらいあるかは不透明であるとのこと。
- 上海事務所の役割としては、日系コンサル会社 2 社と契約しているので、進出を考える企業に市場調査などの進出支援を行っている。また、長崎魚市の鮮魚が通関を通る際に円滑にいくように、上海市政府とのやりとりを行っている。中国の旅行会社に長崎への旅行を売り込んだり、クルーズ船が長崎に寄るよう働きかけたりしている。

(2) 長崎魚市アンテナショップ視察

11 月 12 日、長崎鮮魚の輸入販売を手掛ける上海大菱食品有限公司を訪問し、曾波総経理から長崎鮮魚の販売状況等の説明を受けた。

[主な内容]

- 長崎鮮魚は中国における水産物のトップブランドとなっており、販売量も年々増加。2015 年の販売見込みは 7 億 5 千万円であり、2020 年に 100 億円を目指している。
- 大勢の中国人が旅行で日本を訪れ、そこで本当の日本食を体験して中国に戻ってくる。中国でも本当の日本食を食べたいとの要望が高まり、日本の飲食会社が進出してきている。長崎鮮魚の需要も高まっている。
- ブランドイメージを守るため、中国国内のものは取り扱っていないとのことである。(中国国内のものを少しでも取り扱うと不信感を持たれてしまうため、最初から取り扱っていない。)
- 築地は冷凍品のみを取り扱っており、現在、日本の鮮魚は長崎鮮魚のみ。同じような魚種においては、ライバルはいないとのこと。
- 長崎ー上海便は週 2 回で、欠航になると、急ぎよ福岡便に振り替えなければならない。行政には安定した運行を行えるよう、力添えをいただきたいとの要望が述べられた。



上海大菱食品有限公司の外観



曾波総経理の説明を受けるようす

(3) 上海市内視察（南京路、豫園、外灘地区）

11 月 12 日、上海最大の繁華街である「南京路」及び観光地である「豫園」や「外灘地区」を見学した。